

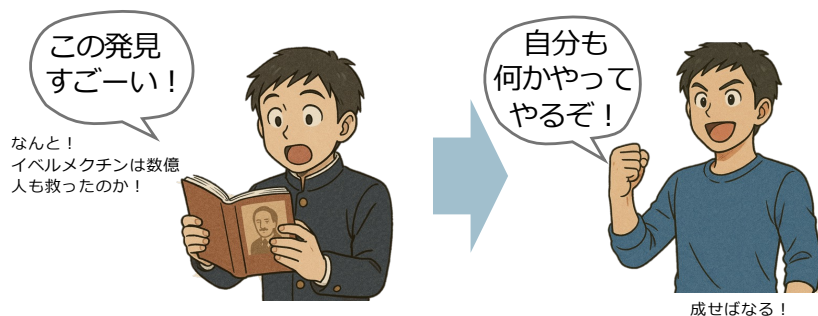
# 日本の教育研究改革を求める会



実施すべき3つの改革

## 活動趣旨

★こんな風に意欲・主体性を育てよう



偉大な発見に感銘を受けて発見を目指す人

「発明や発見あるいは社会課題の解決にまつわる発想や創意工夫、挑戦やもたらしたインパクト」を教えるべき

- ・意欲は感心・感銘体験によって育つ。覚えるべき知識が並んでいる教科書では意欲が育たない。
- ・知識偏重の受験勉強が意欲形成を阻害している。
- ・科学技術イノベーション基本計画に「発明や発見あるいは社会課題の解決にまつわる発想や創意工夫、挑戦やもたらしたインパクトを教える教育」を盛り込むべき。

感心・感銘体験による  
意欲形成教育・人材育成を！

★学生に「科学的素養」を身につけさせよう



「科学的素養」は技術や能力の基盤となるもので、人材の生産性に直結する。

教育に取り入れるべきだ。

国がポリシー策定ガイドラインをバージョンアップすれば良いし、大学が、自主的にディプロマポリシーを修正しても良い。

研究室教育で身につけるべきことは「科学的であるためには、どうしたらいいか？」

・研究活動を通じて学生に「科学的素養」を修得させるべき。

・大学・大学の教育の高度化だけでなく、学位の質保証にもつながる。

・「科学的素養」は思考力・課題発見能力・コミュニケーションなど汎用能力の基礎。

科学的素養を修得させる  
大学・大学院教育を！

★大学には、成果が出る環境づくりを求めよう

ワンクッション置くんだよ。成果じゃなく環境を追うんだ。

この20年、大学は成果が出やすい環境になってきたかい？

成果競争じゃなくて、環境づくり競争だ

大学に成果を求めると、論文数とかの数字をおいかけてやう。その悪影響はみんなよく知っている。

やり方を改め、大学には環境づくりを求めるべきだ。環境が良くなれば成果がついてくる。

「テストの点が悪かったら叱る」やり方は子供を萎縮させ、勉強嫌いにするだけだ。親がすべきなのは勉強したくなる環境づくり。これは子育てなどでよく言われていることだ。

・環境実現を目指せば、環境が良くなり、教員は教育研究に集中できるようになって、良い成果がたくさん生まれる。

・どんな環境をどのように作ればよいか素案がある([パワーポイントファイルへのリンク](#)、[ワードファイルへのリンク](#))が、大学ごとに考えていくべき。

結果ではなく環境実現を追求  
する方式への転換を！

意欲と科学的素養を身につけた人材が増え、大学の研究環境が改善する。  
イノベーションがたくさん起きて日本が豊かになる。

成長戦略として重要！